

## 会 議 録

|                    |     |  |    |      |      |    |
|--------------------|-----|--|----|------|------|----|
| 会議名<br>(審議会等名)     |     | 平成30年度第2回相模原市立図書館協議会   |    |      |      |    |
| 事務局<br>(担当課)       |     | 相模原市立図書館 電話：042-754-3604(直通)   |    |      |      |    |
| 開催日時               |     | 平成30年11月15日(木)午後6時～午後8時  |    |      |      |    |
| 開催場所               |     | 相模原市立図書館 2階 中集会室   |    |      |      |    |
| 出席者                | 委員  | 10人(別紙のとおり)  |    |      |      |    |
|                    | その他 | 5人(生涯学習部長、生涯学習課長、同担当課長、同主査2人)  |    |      |      |    |
|                    | 事務局 | 9人(図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長、他5人)   |    |      |      |    |
| 公開の可否              |     | 可  | 不可 | 一部不可 | 傍聴者数 | 1人 |
| 公開不可・一部不可の場合は、その理由 |     |  |    |      |      |    |
| 会議次第               |     | <p>1 会長及び副会長の選出</p> <p>2 議題<br/> (1)次期相模原市図書館基本計画について(諮問)<br/> (2)次期相模原市図書館基本計画の策定について<br/> (3)次期子ども読書活動推進計画の策定について<br/> (4)平成29年度図書館事業評価について</p> <p>3 その他</p> |    |      |      |    |

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。( は委員の発言、 は事務局等の発言)

### 1 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長に鈴木委員、副会長に高柳委員が選出された。

### 2 議 題

#### ( 1 ) 次期相模原市図書館基本計画について ( 諮問 )

図書館長より鈴木会長に「次期相模原市図書館基本計画について」の諮問を行った。

#### ( 2 ) 次期相模原市図書館基本計画の策定について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

資料 1 - 2 に、本市の特性に応じた施策を盛り込むとあるが、本市の特性とはどのようなものかと考えているか。

本市図書館は分館を合わせて 4 館であり、他の政令指定都市と比較して非常に少ない状況にある。一方で、公民館等図書室が 25 室あり、図書館を補完している。また、他市では中央図書館があることが多いが、本市では並列館として図書館行政を進めてきている。こういったところが本市の特性かと考えている。

中間見直しを行なう必要があるかどうかの判断はどのように行なうのか。必要に応じてという表現は曖昧であるため、2 年ごとの見直しとしてはどうか。

一つの目安としては、次期総合計画の実施計画期間が 4 年となる予定のため、そこで中間見直しを考えたい。また、その期間の中で事業評価を行ないながら、時代に見合わないことがあれば協議会に諮り、見直しの必要性について判断したいと考えている。

この 10 年間で、何が達成できて、何が達成できていないか、現状を把握することでしか次期計画を策定できないと考える。一つの例として、利用者数をどう考えるかがある。現計画では基本目標 2 「暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ図書館」や基本目標 5 「人と本、人と人との出会いを広げ、ゆとりとぬくもりが感じられる図書館」があるが、地域の人々の活動の場としての利用であったり、図書館に来て何かを成し遂げたり、「場としての図書館」はこれからさらに大きくなると考えたときに、利用者数をどう把握していくかが次期計画を考えていく中で重要である。資料 1 - 1 の年齢別の貸出冊数で、事務局の説明の中では 20 代と 30 代の貸出冊数が大きく減少しているという指摘があったが、図書館は利用しているが本は借りていなかったり、以前利用していた人が何かきっかけでまた利用したりするなど、貸出冊数では本当にこの世代が図書館を利用しな

くなったのかは不明である。平成20年度の30代は約60万冊借りており、40代と同じくらい借りていた時代があったと考え、人口減少以外に何か要因があるのではないかと考える。そういった要因を探ることが次期計画を考える観点の一つになるのではないかと考える。

全ての利用者数にはならないが、貸出者数やイベントの参加者数、アンケート調査等で利用者を捉えていきたい。また、入館者数も3図書館では捉えているため、入館者数と貸出者数の関係性についても検討に加える必要があると考える。滞在型の図書館についても、今後検討の中で意見を伺いたい。

貸出冊数の年齢別はどのように把握しているのか。男女は把握できるのか。

年齢は貸出券に情報として入っているため、貸出処理をした際に把握できる。男女の情報は入っていないため、把握できない。

相模原市ではこれまでこういった情報にニーズがあり、これからの情報ニーズはどうなりそうなのかを、より細かな分類ごとの貸出冊数から分析し、現状のコレクションの有効活用を図りながら、今後の図書館のコレクション構築に生かしてもらいたい。

相模原市の図書館の特性の一つでもある旧4町について、人口密度は高くないが、各地域に住民がいる状況で、今後、ここを拠点にどのように図書館サービスを拡充していくのか。物理的な拡張と同時に情報技術を活用した電子的な手法の一つ考えられる。他方で子どもたちへのサービスや、移動に困難を抱える高齢者の増加を考慮すれば、物理的なサービス網はますます重要になってくるのではないかと考える。特にこれからの8年は重要になるため、議論の材料の一つに加えていただきたい。

現計画の中でも、合併した津久井地域の図書館機能の在り方については取り組んでおり、その中でもネットワーク化を進めてきた。今後こういったサービスができるのかは、次期計画の中でも充分検討し、何らかの形で答えを出したいと考えている。

本協議会と庁内組織との情報のやり取りは、どのように行なうのか。また、時期は不定期で行なうのか。

本協議会と庁内組織の関わりについては、庁内組織で検討したものを本協議会でご協議いただき、それを庁内組織にフィードバックをし、何度もキャッチボールを重ねながら情報共有をしたいと考えている。時期については、資料1-2のスケジュールにある5回程度開催予定の本協議会で行なう。

資料1-3の実施済アンケート「市政モニター」の回答者数113人というのは十分な数と考えているのか。また、利用者アンケートだけでなく、図書館に来ない人へなぜ来ないのかをアンケートすることも必要ではないか。

サンプル数としては少ないが、平成28年度に実施した世論調査については、

約1,500人から回答をいただいております。こちらにも活用していきたいと考えています。また、この世論調査は市民を対象としているため、図書館未利用者へのアンケートとしてもこちらを活用したいと考えています。

### (3) 次期子ども読書活動推進計画の策定について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

議題2の次期相模原市図書館基本計画と次期子ども読書活動推進計画は、連動する施策のため、調整が必要ということか。

整合性を取る必要がある。また、双方のアンケート結果を、双方の計画策定に活かすように連携していきたい。

資料2-1の計画の体系に、保護者が出てくるが、保護者をどう捉えているのか。家庭で本に囲まれている子どもや、親が読書をする子どもはよく読書をする一般的な言われているが、親の読書への支援はこの中に含まれているのか。

4カ月児や2歳6カ月児を対象とした絵本の読み聞かせや絵本のプレゼントなど、子どもの読書に対する親への支援は行なっているが、親自身の読書への支援は行っていない。もちろん図書館サービスの中では、様々な方に読書への興味関心を広めていただけるよう、読書推進を行なっているが、親自身の読書という視点については、今後の検討材料とさせていただきたい。

子どもに読書を奨励するのと、親に読書を推奨するのは一体で実施していったらいい。

親の読書が子どもへ与える影響という観点からも検討していきたい。

大人が読む本と子どもが読む本を分ける考え方もあるが、中学生や高校生になったら、親と読む本を共有することもある。思春期の子どもが読んでも問題ないか、親が先に読んで把握したり、絵本でも大人が見て感動するものもあるので、子どもと一緒に読んだり、保護者を対象にした読書も幅を広げて考えてもらいたい。

家庭への支援の項目の中で、身近な大人が読書する姿勢を見せたり、家族で本の感想を語り合ったりすることが、子どもが読書をするきっかけになるという捉えは現計画の中でもしているが、具体的な施策の中でどうしていくかは今後検討する。

保護者は、図書館の利用者でもあるため、図書館の読書推進が進めば、子どもの読書だけでなく、保護者も読む環境がよくなるということで、図書館基本計画と子ども読書活動推進計画は連動している。子ども読書活動推進計画の中でできるかどうかの問題はあるが、連動している両計画の中で、保護者の読書推進が可能なようにしてもらいたい。

小学生に対するアンケートの中に、「あなたのお父さんお母さんはいつも本を

読んでいますか」という観点を入れてはどうか。

設問を考える中で案はあったが、学校の関係者等に相談したところ、中には複雑な家庭があり、デリケートな問題であるということで、今回のアンケートでは控えたところである。

児童福祉施設から通ってくる子どももいる。いろいろな環境の子どもがいるので、家庭に関わる設問はやはり難しい。

「あなたの身近にいる大人の中に、本の楽しさを伝えてくれる人がいるか」など、保護者と言わず抽象的にしてはどうか。

どうしてもデリケートな問題なので、あまり「身近な」等の言葉は入れない設問の方がよいのではないか。

設問2の「読む本をどうやってえらびますか。」の回答に、「家族にすすめられて」や「友だちにすすめられて」というのもあるため、多少ヒントになるのでは。アンケートで聞ける内容は限られているため、ヒアリングの中で聞けることがあれば、必要に応じて聞いてもらえればよい。

保護者向けのアンケートの設問1を「あなたはどのくらい本を読みますか」といった保護者自身に質問をすれば、先ほどの保護者の読書の視点になるのではないか。子どもには大人が本を与えるものという発想で設問が設定されているが、自分から探すという観点からすると、自然に読書に向かう環境かどうかという発想でこういった設問でもいいのではないか。

検討させていただきたい。

本市は広いため、学力学習状況調査を行なうと、地域性が出てくる。偏りが出ないように、地域性も配慮しながらアンケートを行なってもらいたい。

アンケート調査対象については、地域性を考慮して選びたい。

アンケートとヒアリングについては、委員から出た意見の要素をできるだけ取り入れ、汲み取れるような形の分析をお願いしたい。

小学生に対するアンケートの設問5(2)の選択肢で、「新しい本や人気の本がある」とあるが、新しい本があるから行くのと、人気の本があるから行くというのは異なった性格の問いである。これを一つの選択肢に入れてしまうと、どちらを意図して回答したかが後で集計できなくなる。複数の意味を持つような選択肢があれば、改めて検討した方がよい。

設問の意図するところを考慮しながら検討したい。

#### (4) 平成29年度図書館事業評価について

事務局から資料に基づき説明をし、質疑応答を行った。

事業評価が初めての委員は、実際に評価するときにわからない部分もあると思うので、その際の説明をお願いしたい。

### 3 その他

( 1 ) 淵野辺駅南口周辺公共施設再整備事業について  
生涯学習課から資料に基づき説明を行なった。

( 2 ) 事業報告及び館報発行報告 ( 平成 3 0 年 7 月 ~ 1 0 月末 )  
資料配布のみ行なった。

以 上

## 相模原市立図書館協議会委員出欠席名簿

|    | 役 職   | 氏 名     | 所 属 等                   | 出欠席 |
|----|-------|---------|-------------------------|-----|
| 1  | 会 長   | 鈴 木 良 雄 | 専門図書館協議会事務局             | 出 席 |
| 2  | 副 会 長 | 高 柳 眞木子 | みらい子育てネットさがみはら<br>連絡協議会 | 出 席 |
| 3  | 委 員   | 金 井 秀 夫 | 相模原市立中学校長会              | 出 席 |
| 4  | ”     | 大 西 輝 佳 | 相模原市立小学校長会              | 出 席 |
| 5  | ”     | 藤 嶋 直 司 | 相模原市公民館連絡協議会            | 出 席 |
| 6  | ”     | 金 子 友 枝 | 相模原市社会教育委員会議            | 出 席 |
| 7  | ”     | 小 山 憲 司 | 中央大学文学部教授               | 出 席 |
| 8  | ”     | 井 狩 芳 子 | 和泉短期大学児童福祉学科教授          | 出 席 |
| 9  | ”     | 三 木 涼 子 | 公募                      | 出 席 |
| 10 | ”     | 水 田 繁 生 | 公募                      | 出 席 |